

# ● 行政の窓 平成18年度 北海道木材需給見通しについて ●

## 【需要について】

- 17年度の需要量は、パルプ用、製材用はともに前年並みですが、合板等は減少するため、16年度実績(833万m<sup>3</sup>)に対し1.7%減の819万m<sup>3</sup>の見込みとなっています。
- 18年度も同様の傾向が続くものと予想されていることから、H17見込み(819万m<sup>3</sup>)に対して0.2%増の821万m<sup>3</sup>の見通しです。
- なお、北海道ではパルプ用の割合が58%となっており、全国に比べて高い傾向にあります(全国17年見通し44%)。

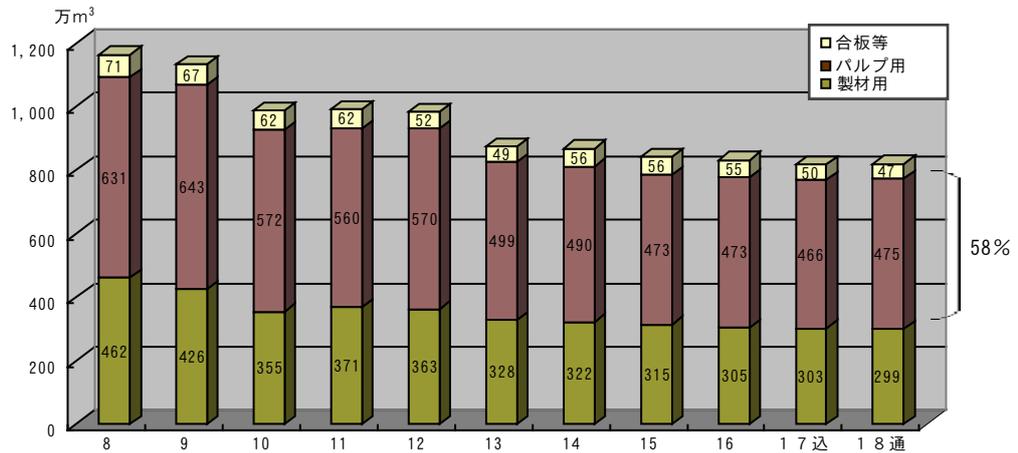


図1 需要量の動向

## 【供給について】

- 17年度の供給量は、風倒木の出材(パルプ原料)で道産材は増加しますが、輸入丸太等の減少が顕著で、16年度実績(846万m<sup>3</sup>)の1.9%減の830万m<sup>3</sup>の見込みです。
- 18年度の供給量は前年度の在荷増により輸入材、道産材ともに減少が予想されることから、17年度見込み(830万m<sup>3</sup>)の2.1%減の813万m<sup>3</sup>の見通しです。

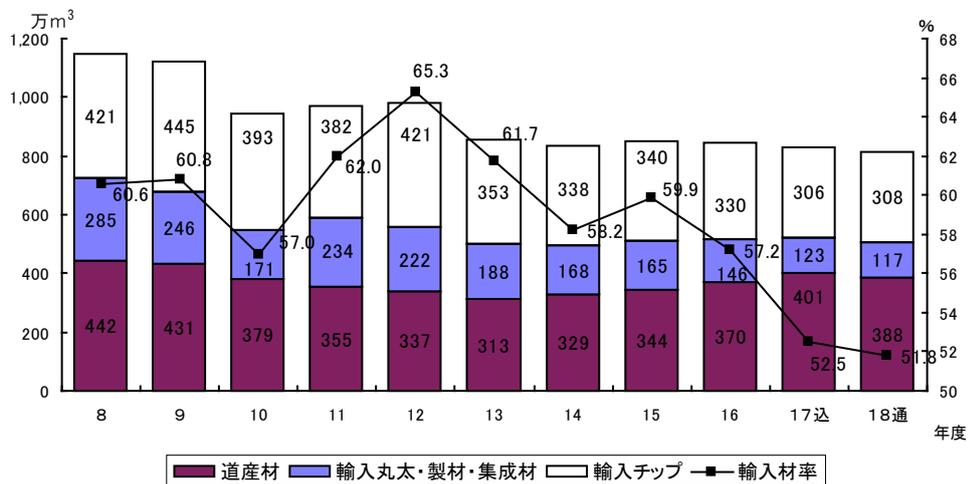


図2 供給量の動向

## 【輸入材について】

- 北海道の輸入材率(輸入量/総需要量)は、17年度で16年度実績(57.2%)に比べ4.7ポイント減少して、52.5%となる見込みです。
- 18年度は、17年度見込みに比べさらに0.7ポイント減少して、51.8%となる見通しです。

※数値は原木消費量または原木換算値  
(水産林務部林務局林業木材課木材産業グループ)